

## [INDEX]

### ◆視点

- ・果樹研究センターの移転

### ◆研究情報

- ・ワサビ新品種‘静系18号’の育成
- ・静岡県産スギ特定母樹の選抜

## 視点

## 果樹研究センター

### 果樹研究センターの移転



開所式でのテープカット

### センター長 市川 健

果樹研究センターは、平成27年10月1日、浜松市北区の落葉果樹科と一つになり、これまでの静岡市清水区駒越から、清水区茂畑の県営畠地総合整備事業地内の創設非農用地に移転しました。

果樹研究センターは、昭和15年に柑橘試験場として清水区駒越に創設以来、新品種の育成、青島温州など優良品種の栽培技術開発、環境負荷の少ない施肥技術、天敵を活用した病害虫防除技術の開発などに取り組み、本県果樹産業の発展に寄与してまいりました。しかし、昭和44年に整備した建物の老朽化や、傾斜地の研究圃場で大型機械を

活用した研究ができないことなどにより、静岡市から誘致のあった清水区茂畑地区へ移転しました。

新たな果樹研究センターでは、平坦な圃場を利用し、大規模経営のための垣根型成園化技術や小型無人機利用技術の開発による省力化、低コスト栽培技術の研究などに取り組みます。

また、2か所のオープンラボを設け、果樹生産者、JA及び共同研究を行う企業の方々に御利用いただくことができます。

11月27日には、関係者約100人をお招きし、開所式を執り行いました。当日は快晴に恵まれ、テープカットの後、副知事や来賓の祝辞に続き、新たなセンターの見学会が行われました。

今後、果樹研究センターでは、輸出、機能性、ロボット化など新たな幅広い分野の研究に取組むことで、本県果樹産業の更なる発展を支援してまいります。



果樹研究センター遠景

## 研究情報

### ワサビ新品種‘静系18号’の育成

静岡県の水ワサビは、全国一の生産額を誇り、高品質なワサビが生産される産地として知られています。しかし、ワサビの種苗生産は他の野菜よりも難しく、生産効率が低いことが問題となっています。ワサビには、分根や組織培養した植物体を利用する栄養繁殖性品種と、種子から育成する種子繁殖性品種があります。栄養繁殖性品種は、病害の保毒や生産コストに、種子繁殖性品種は、根茎（すりおろす部分）肥大の均一性に問題が見られます。

そこで、伊豆農業研究センターわさび科では、集団選抜法により根茎肥大が優れる種子繁殖性のワサビ品種‘静系18号’を育成しました。

‘静系18号’は、既存品種よりも約6か月早い定植後12か月で収穫が可能となり、辛味と甘みのバランスが良く食味に優れています。

採種には他品種の花粉の交雑を避けるため、専用施設で栽培し、ミツバチによる受粉を行います。ワサビの種子は、長期保存が困難で、今後、安定的な育苗技術を確立することで、‘静系18号’の普及を図ってまいります。（伊豆農業研究センター わさび科 上席研究員 馬場富二夫）

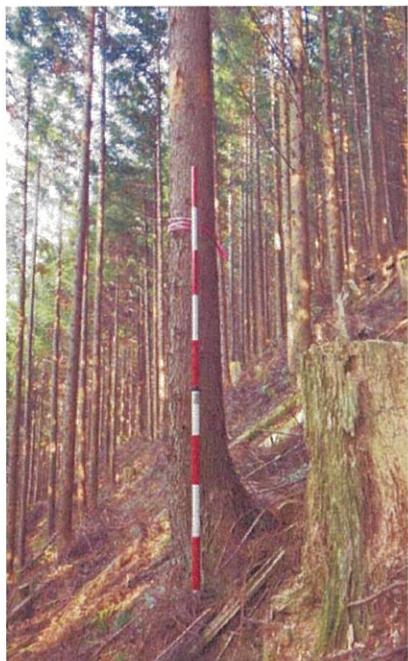


‘静系18号’の主根茎

## 研究情報

### 静岡県産スギ特定母樹の選抜

平成25年に間伐特措法が改正され、今後は、成長に優れる特定母樹からの種苗を用い、造林が行われることとなりました。このため、基準に適合する静岡県産スギの特定母樹候補木3系統を林野庁へ指定申請し、平成27年10月、これら全てが本県初の特定母樹に指定されました。



選抜したスギ特定母樹天竜22号

特定母樹とは、特に優良な種苗を生産する種子や、挿し穂の採取に適する樹木として農林水産大臣が指定するものです。指定の基準は材積が在来系統と比べて概ね1.5倍以上、強度が平均以上、通直性に優れ、花粉量が概ね半分以下で、県が育成を目指している「静岡型エリートツリー」となるものです。

今回、指定された3系統は、森町三倉にある21年生の交配試験林から選抜した天竜21号、天竜22号、天竜23号です。特に天竜22号は材積が在来系統の2倍と成長に優れた特性を持っています。これらを母樹とした種子や挿し穂による苗を植栽することで、早期に下草の高さ以上となり、下刈回数の削減が図られ再造林コストの低減が期待されています。

この種苗を生産するためには、採種園・採穂園の新規造成が必要となり、現在、県では新たな採種園造成に向けた取組を行っています。今後はさらに、特定母樹候補木の選抜を進め、順次指定を受け静岡型エリートツリーの拡大を目指してまいります。

（森林・林業研究センター 森林育成科 主任研究員 山田晋也）